

機関番号：32652

研究種目：若手研究 (B)

研究期間：2009 ～ 2010

課題番号：21700827

研究課題名 (和文) 不登校児童生徒と教室を結ぶ e ラーニング環境の構築に向けた基礎研究

研究課題名 (英文) Basic study for construction of e learning environment that connects truant child student with classroom

研究代表者

加藤 尚吾 (KATO SHOGO)

東京女子大学・現代教養学部・講師

研究者番号：80406735

研究成果の概要 (和文)：本研究の知見は、必ずしも不登校児童生徒に対するインターネットを用いた支援が簡単ではないことを示すものであった。たとえば、テキストベースのコミュニケーションにおいて、送信者による自身の感情の伝達の操作など、複雑な感情方略がみられた。つまり、インターネットを用いて実際の不登校児童生徒に対する支援を考えたとき、様々なトラブルが予想される。また、地方自治体が不登校支援を行うためのシステムを導入する際の課題について検討を行った。これらの知見に関して国内外で発表した。

研究成果の概要 (英文)：The finding in the study showed that support that used the Internet to the truant child student was not necessarily easy. For instance, complex feelings plot to operate the transmission of own feelings by the sender was seen in text based communication. When thinking about support to an actual truant child student by using the Internet, various troubles are anticipated. Moreover, the problem when the local government introduced the system to support the truancy was examined. These findings were announced inside and outside Japan.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2010年度	1,400,000	420,000	1,820,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：科学教育・教育学・教育学

キーワード：メディア教育、不登校支援、メディアコミュニケーション、eラーニング、感情

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、電子メディアを使用した不登校児童生徒支援に関する研究や、その基礎的な研究として、コンピュータを介したコミュニケーション (CMC) での感情面に関する研究を行ってきた。本課題は、研究代表者のこれまでの研究の発展として、不登校児童生徒と教室をインターネットでつなぐ eラーニング環境の構築に向けた基礎的な研究を行

う。

不登校児童生徒が対象の電子メディア学習環境では、一般の eラーニングなどの学習環境以上に、コミュニケーションが重要になる。すなわち、メンターやファシリテーター、教員、相談員と児童生徒とのかかわり方、児童生徒同士のかかわり方が重要と考えられる。

コミュニケーションは、知識の構成の役割

もあるが、それ以前に、情意面に影響を与える。したがって、一般のeラーニングに関する研究で蓄積された教材、コンテンツを利用するだけでなく、十分な感情面への支援を伴って、はじめて学習の場となると考えられる。

本課題の学習環境では、学習という活動の中でコミュニケーションを支援するため、学習活動がコミュニケーションの訓練にもなる。一般に、不登校児童生徒はコミュニケーションが苦手であり、この改善も期待できる。

2. 研究の目的

本研究課題は、現在教育現場を超えて社会的な問題になっている不登校や引きこもりを対象にしたコミュニケーション支援のための基礎研究を行うものである。特に不登校児童生徒への支援を最終目標としている。コミュニケーション支援を通して、不登校児童生徒にとっての「学校」に対する敷居を低くし、彼らの学校、学習に対する関心を高めるためのeラーニング環境について、基礎研究を行う。加えて、不登校児童生徒のための学習環境の設計およびプロトタイプの開発と評価を行い、不登校児童生徒と教室、教育センターの相談員をつなぐeラーニング環境構築のための可能性と限界を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 本研究課題に関する先行研究の調査を行う。具体的には、CMCにおける感情面に関する研究、インターネットによる不登校支援に関する研究や実践、eラーニングに関する研究や実践、運用に関する報告の調査を行う。なお、この調査には、研究代表者がこれまで実施した研究知見を、不登校児童生徒へのコミュニケーション支援の視点から、まとめ直すことも含まれる。

CMCにおける感情面に関する実験を行う。具体的には、本課題で構築するeラーニングシステムを想定し、コミュニケーション支援のより良い方法を探るための実験計画を立てる。テキストコミュニケーションに加えて、非同期の動画によるコミュニケーションの効果的な使用方法についてや教育現場の職員に、インタビューや質問紙による調査を実施することにより、プロトタイプシステムを検討する。

4. 研究成果

平成21年度においては、本研究課題に関する詳細な調査を主に行った。研究代表者のこれまで明らかにしてきたインターネット上でのコミュニケーションにおける感情的な側面の特徴について、より詳細に、またより多くの知見が得られた。この知見は、必ずしも不登校児童生徒に対するインターネットを用いた支援が簡単ではないことを示す

ものであった。たとえば、テキストベースのコミュニケーションにおいて、送信者による自身の感情の伝達の操作など、複雑な感情方略がみられた。したがって、メディアの影響という要因以外にも送信者の感情操作などの要因も感情伝達に影響を与えることがわかった。つまり、インターネットを用いて実際の不登校児童生徒に対する支援を考えたとき、様々なトラブルが予想されることがわかった。これらについて、学会発表等を行った。

平成22年度においても引き続き、本研究課題に関する詳細な調査を主に行った。研究代表者の平成21年度以前で明らかにしてきたインターネット上でのコミュニケーションにおける感情的な側面の特徴について、新たな知見が得られた。すなわち、携帯メールにおいて、依頼や誘いをする際に、その断りやすさについて分析した。人に対して何らかの依頼や誘いをするという行為(依頼者側)は心理的負担が大きいと思われる。また、その依頼や誘いに対して断る行為(依頼される側)も心理的負担が同じく大きいと思われる。この心理的負担の大きい行為に対してどのような要因が影響を与えるかを検討した。また、地方自治体が不登校支援を行うためのシステムを導入する際の課題について検討を行った。これらの知見に関して、国内学会や国際会議で発表を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3件)

1. Kato, Y., Kato, S., Scott, D. J., & Sato, K. (2010) Patterns of emotional transmission in Japanese young people's text-based communication in four basic emotional situations. International Journal on E-Learning (IJEL) Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education, 9, 203-227. (査読有)
2. Kato, S., Kato, Y., & Scott, D. J. (2009) Relationships between emotional states and emoticons in mobile phone email communication in Japan. International Journal on E-Learning (IJEL) Corporate, Government, Healthcare, & Higher Education, 8, 385-401. (査読有)
3. 尾澤重知, 加藤尚吾, 西村昭治 (2009) 社会人メンターを導入した中学校でのキャリア教育の実践と評価. 日本教育工学会論文誌, 33, 321-332. (査読有)

[学会発表] (計 26 件)

1. Kato, Y., Scott, D.J., & Kato, S. (2011.6.28). Comparing American and Japanese young people's emotional strategies in mobile phone email communication. World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA) 2011, リスボン.
2. Scott, D.J., Liu, S., Kato, Y., & Kato, S. (2010.6.30). Using mobile devices for data collection: exchanging ideas and models. World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA) 2010, トロント.
3. Kato, Y., Kato, S., & Chida, K. (2010.3.20). Background images of messages and interpretation of emotional cues in text-based communication. IADIS International Conference e-Society 2010, ポルト.
4. Chida, K., Kato, S., & Kato, Y. (2010.3.20). Use of background images in text-based communication in four basic emotional situations. IADIS International Conference e-Society 2010, ポルト.
5. Scott, D.J., Kato, Y., & Kato, S. (2009.10.27). Gender and the selection of communication technologies in emotional situations. World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education (E-Learn) 2009, バンクーバー.
6. Liu, S., Scott, D.J., Kato, Y., & Kato, S. (2009.10.29). Development of a mobile phone-based data collection and analysis system. World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education (E-Learn) 2009, バンクーバー.
7. Kato, Y., Kato, S., Scott, D.J., & Takeuchi, T. (2009.6.26). Analyzing emotional cue transmission and message contents in Japanese mobile phone email communications. World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA) 2009, ホノルル.
8. Kato, S., Kato, Y., Scott, D.J., & Takeuchi, T. (2009.6.23). Rating communication methods and emotional transmissions in anger and guilt situations by Japanese college students. World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA) 2009, ホノルル.
9. Takeuchi, T., Kato, S., Kato, Y., & Wakui, T. (2009.6.24). Manga-based beginner-level textbooks; proposal of a website for their creation. World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications (ED-MEDIA) 2009, ホノルル.
10. 加藤由樹, 加藤尚吾, 赤堀侃司, 吉本真代, 杉山康彦 (2010.9.19). デジタルペン、タブレットPC、PCおよび紙と鉛筆の4種類のメディアを用いた試験に関する比較分析. 日本教育工学会第26回全国大会, 金城学院大学.
11. 杉山康彦, 加藤由樹, 加藤尚吾, 赤堀侃司, 吉本真代 (2010.9.19). デジタルペンをを用いた読解力測定試験の試行と一考察. 日本教育工学会第26回全国大会, 金城学院大学.
12. 加藤尚吾, 加藤由樹, 赤堀侃司 (2010.9.19). CBTのための基礎研究—励ましの言葉をかけるキャラクター画像が受験生に及ぼす影響—. 日本教育工学会第26回全国大会, 金城学院大学.
13. 加藤尚吾, 加藤由樹, スコット・ダグラス (2010.8.22). 携帯メールメッセージの内容分析—感情伝達と性差による検討—. 日本教育情報学会第26回年会, 岐阜女子大学.
14. 竹内俊彦, 窪田尚, 千田国広, 加藤由樹, 加藤尚吾 (2010.7.17). 電子掲示板における参加者の感情状態の手がかりのためのマンガを利用したメッセージの提案. 第17回日本教育メディア学会年次大会, 熊本大学.
15. 加藤尚吾, 加藤由樹, 千田国広 (2010.5.30). テキストコミュニケーションにおける感情伝達に背景画の及ぼす影響. 日本認知心理学会第8回大会, 西南学院大学.
16. 加藤由樹, 加藤尚吾, 赤堀侃司 (2010.5.15). 試験問題に登場する励ましの言葉をかける今風のキャラクター画像が受験者に及ぼす影響に関する検討. 日本教育工学会研究会, JSET10-2, 北海道教育大学.
17. 加藤由樹, 加藤尚吾, 千田国広 (2010.3.6). テキストコミュニケーションにおけるメッセージの背景画と感情手がかりの伝達—イメージBGを用いた背景画の検討—. 日本教育工学会研究会, JSET10-1, 広島大学.

18. 窪田尚, 加藤由樹, 加藤尚吾 (2009. 11. 15). コミュニケーションにおけるマンガによるメッセージ表現の提案と検討. 平成 21 年度情報教育研究集会, 東北大学.
19. 加藤尚吾, 加藤由樹, 赤堀侃司 (2009. 10. 24). 試験問題に登場する励ましの言葉をかけるキャラクター画像が受験者に及ぼす影響に関する検討. 日本教育工学会研究会, JSET09-4, 信州大学.
20. Liu, S., Scott, D. J., Kato, Y., & Kato, S. (2009. 9. 20). Development of a mobile phone research support system. 日本教育工学会第 25 回全国大会, 東京大学.
21. 加藤由樹, 加藤尚吾, スコット・ダグラス (2009. 9. 19). 携帯メールにおける共感を伝えるメッセージの有無が読み手の感情面に及ぼす影響に関する調査. 日本教育工学会第 25 回全国大会, 東京大学.
22. 佐藤弘毅, 加藤由樹, 加藤尚吾 (2009. 9. 12). 電子メールコミュニケーションにおける感情方略と感情の伝わりやすさに関する検討. 日本認知科学会第 26 回大会発表, 慶應義塾大学.
23. 加藤由樹, 加藤尚吾, 佐藤弘毅 (2009. 9. 11). 怒りと罪悪の状況における携帯メールコミュニケーションでのメール内容の分析—相手との親密度に注目して—. 日本認知科学会第 26 回大会, 慶應義塾大学.
24. 加藤尚吾, 加藤由樹 (2009. 9. 10). 4 種類の感情がそれぞれ生じる状況において相手への返事の際のメディア選択に関する分析. 日本認知科学会第 26 回大会, 慶應義塾大学.
25. 加藤由樹, 窪田尚, 加藤尚吾 (2009. 8. 23). 電子メールメッセージにおけるマンガ表現と従来のテキスト表現との比較—書き手の心理面に注目して—. 日本教育情報学会第 25 回年会, 立命館大学.
26. 加藤尚吾, 加藤由樹, 窪田尚 (2009. 8. 23). 電子メールメッセージにおけるマンガ表現と従来のテキスト表現との比較—書き手の心理面に注目して—. 日本教育情報学会第 25 回年会, 立命館大学.

[図書] (計 1 件)

1. Kato, Y., Scott, D.J., & Kato, S. (2011.1). The influence of intimacy and gender on emotions in mobile phone email. In D. Gokcay & G. Yildirim (Eds.), *Affective Computing and Interaction:*

Psychological, Cognitive and Neuroscientific Perspectives, (pp.262-279 as Chapter 12). Hershey, PA: IGI Global.

[産業財産権]
○出願状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 尚吾 (KATO SHOGO)
東京女子大学・現代教養学部・講師
研究者番号: 80406735